

2020 年度 日本医科大学

【 講 評 】

大問構成は 5 題で昨年度より 1 題増加したが、全体的な分量は例年並み。例年通り、出題される英文自体の難易度は高くないが、細かい内容を問う設問が散見され、それが全体の難易度を高めている。発音・アクセントに関する問題の難易度も例年通りやや高く、差がつきやすい。発音・アクセントや語彙といった知識問題から、細かい内容把握を要する読解問題、そして自由英作文まで総合的に出題されており、高度な英語の運用能力を試されていると言える。

【 解 答 ・ 解 説 】

1

問 1 (思考や記憶、問題解決の過程において使われることで) 人間の認識能力を高めてくれるような道具。110-12 を参考にする。前半は解答欄の大きさ次第で省略可。

問 2

(1) (い)

complement は「～を完全にする、補完する」という意味。各項目を訳すと、

(あ) このことはごみの排出を減らすことで環境汚染を補完することを意図したものである。

(い) このことは既存の法律実務を代替するものではなく、補完することを意図したものである。

(う) このことは不適切なふるまいをしない彼女の見掛けで彼女を補完することを意図したものである。

(え) このことは睡眠周期を乱すので体の健康を補完することを意図したものである。

となり、最も適切なのは (い) である。

(2) (い) このことは既存の法律実務を代替するものではなく、補完することを意図したものである。

問 3

(1) the Arabic number system、the abacus

the Arabic number system は 133 に記載。135 に These kinds of tools…とあり、この These は the Arabic number system を指すので、これが一つめの例だとわかる。the abacus に関しては 139 に他の例として記載がある。

(2) 物理的にその道具がない状態でもある程度は頭の中でそれを想像して使い続けることができるという特徴。137.38 を参考にする。日本語で説明する問題なので、日本語として意味が通るように、直訳から少し補填すると良い。

問4 そろばん

140-44 の説明より予想する。前半には見た目、後半には使い方が書いてある。想像力を働かせる。そのあとに電卓と比べられていることも判断材料として使える。

問5 (い)

(あ) は本文 121-24 に記載されている。

(い) 159.60 などより、筆者は **competitive cognitive artifacts** に否定的だとわかるので本文にそぐわない。

(う) 上記とは逆に、149.50 などからわかるように筆者は **complementary cognitive artifacts** に肯定的。

(え) 17.8 に記載されている。

(お) 117 に **the Roman number system** について紀元前二世紀から紀元後 1500 年まで使われていたと、130 に **the Arabic number system** は紀元後二世紀に発達したと記載されているので前者は校舎よりも古い。本文に合っている。

2

One example of complementary cognitive artifact is address book. You first write down one's phone number and check it many times when you call them so you can naturally remember them. It enhances your cognitive skills. On the other hand, cellphone is an example of competitive cognitive artifact. With cellphone, you can call people automatically by one push when you registered one's contact name. So you tend not to remember their address and don't use your cognitive skills. Thus, it competes with your own cognition.

《方針》 具体例は本文に合わせてデジタルとアナログで比較できるものにとすると書きやすい。

3

問1

A. help 助動詞があるので動詞は原形。

B. affected 過去完了形をつくるので動詞は過去分詞に活用。

C. responding 前置詞 by よりそのあとの動詞は動名詞にする。

D. confirmed later が間に入っているが、受動態を作っているので過去分詞に活用。

E. offered when や if などの接続詞があると受動態の代名詞+be 動詞が省略されることがある。受動態を作っていたので過去分詞に活用。

問2

2. (3) were

people は person の複数形より were にする

3. (3) subjects

3. の一文目に participants とあるので、被験者は複数とわかるので同意の subject も複数形にする。

4. (3) in

月の前に置く前置詞は in、on は日の前に使う。

4

問1 (1) a (2) a

問2 (1) b (2) c

問3 b, e

問4 (1) a (2) c

問5 (1) d (2) e

問6 (1) a (2) b

問7 (1) d (2) b

問8 (1) a (2) c

5

1. b

be used to 動名詞で「～に慣れている」という意味のイディオム。accustomed も「なれた」という意味より選択肢の中で最も近い。

2. b

contend with で「(敵た困難・不運) と戦う」という意味なので最も近いのは b の compete with。

3. d

different … than~で「～とは違った…」という比較の意味。同質のものを比較してるので those は直前の traits を指す。

4. b

第二段落 (115) で human population evolved in different directions といっており、第三段落はそのヨーロッパ・アジア方面の例を挙げているので、答えはb。段落構成の面から言っても第三段落に文全体のメインアイデアが来ることはほとんどない。

5. a

125 に On another Indonesian island とあるのでその前に他の例が挙げられていたことがわかるので、文章はここに入る。

6. d

immodesty は「厚かましい、謙虚でない」という意味より、下線部はホモサピエンスを厚かましく (過大に) 評価しているという意となる。a と迷うかもしれないが、他を下げているというよりも自らを過大評価しているという意味のほうが良いのでdが最も適切。

7. a, c, d

bは110の文頭に記載されている。a.c.dに関しては「ホモサピエンス」に言及した記述は無い。

8. a, b, d

aは16.7の it is not so distant future …の文より、筆者はそんなに遠くない未来に人は他の人類と競争することとなると予想しているので、本文に合。bは152-54の部分と同じ。cは118.19に Neanderthals のほうが Sapience より大きく隆々しいと書いてあるので本文にそぐわない。dは148-52に同意のことが記載されている。

9. a

fallacy は「誤った考え」という意味なので、aが最も近い意味となる。

10. b

140-42に Homo ergaster は東アフリカ発祥と記載されている。

お問い合わせは ☎ 0120-302-872

<https://keishu-kai.jp/>